



露地ショウガ通信

回覧

高南農業改良普及所 R7年4月作成

5月号 ショウガの出芽と1次茎の保護について

こんにちは、高南農業改良普及所です。ショウガの収量、品質アップに向け、この時期に注意すべき栽培管理についてお知らせします。

1. ショウガの出芽と不織布除去のタイミング

ショウガの出芽は積算地温約600℃ではじまり、約1000℃で生えそろいます。例えば、平均地温21.8℃の場合おおよそ29日目から出芽を開始して、46日目に生えそろいます。

パオパオ等の不織布は、出芽2～3日前を目安に除去しましょう。遅れると、出芽した芽を傷つけたり、十分順化していない芽を高温で傷める可能性があります。

(参考) 植え付けからの地温・気温と出芽(2008年四万十町若井川)

月日	経過日数	地温		気温		備考	月日	経過日数	地温		気温		備考
		日平均	積算	日平均	積算				日平均	積算	日平均	積算	
4/21	0	21.1		15.5		植え付け	5/16	25	23.0	527.7	16.3	391.8	
4/22	1	18.9	18.9	15.1	15.1		5/17	26	23.8	551.5	17.2	409.0	
4/23	2	19.8	38.7	15.6	30.7		5/18	27	24.2	575.7	18.1	427.1	
4/24	3	20.5	59.2	15.5	46.2		5/19	28	22.4	598.2	18.0	445.1	
4/25	4	19.4	78.6	11.1	57.3		5/20	29	22.1	620.3	17.7	462.8	出芽始
4/26	5	19.4	97.9	12.8	70.1		5/21	30	23.1	643.4	16.4	479.2	
4/27	6	19.9	117.8	14.7	84.8		5/22	31	24.0	667.4	18.2	497.4	
4/28	7	20.1	137.9	13.6	98.4		5/23	32	24.1	691.6	18.4	515.8	
4/29	8	21.4	159.2	15.9	114.3		5/24	33	22.9	714.5	18.8	534.6	
4/30	9	23.4	182.6	17.0	131.3		5/25	34	24.1	738.6	22.7	557.3	
5/1	10	21.0	203.6	15.3	146.6		5/26	35	26.1	764.7	22.4	579.7	
5/2	11	19.8	223.4	16.8	163.4		5/27	36	26.6	791.3	20.2	599.9	不織布除去
5/3	12	22.6	245.9	19.6	183.0		5/28	37	24.8	816.1	18.7	618.6	
5/4	13	24.0	269.9	18.7	201.7		5/29	38	21.6	837.7	21.5	640.1	
5/5	14	22.4	292.3	17.6	219.3		5/30	39	21.5	859.2	18.6	658.7	平均出芽日
5/6	15	22.0	314.3	15.2	234.5		5/31	40	20.9	880.1	18.5	677.2	
5/7	16	23.0	337.3	17.0	251.5		6/1	41	21.8	902.0	18.9	696.1	
5/8	17	23.5	360.8	18.1	269.6		6/2	42	20.3	922.3	16.9	713.0	
5/9	18	22.5	383.3	17.4	287.0		6/3	43	19.2	941.4	17.6	730.6	
5/10	19	20.0	403.3	13.2	300.2		6/4	44	20.0	961.4	17.9	748.5	
5/11	20	19.9	423.2	14.7	314.9		6/5	45	20.6	982.0	20.4	768.9	
5/12	21	20.9	444.1	15.7	330.6		6/6	46	21.6	1003.6	19.8	788.7	出芽率100%
5/13	22	19.5	463.6	15.5	346.1		最高	26.6	-	22.7	-		
5/14	23	20.0	483.6	14.5	360.6		最低	18.9	-	11.1	-		
5/15	24	21.1	504.7	14.9	375.5		平均	21.8	-	17.1	-		

注1) 地温測定：うね中央15cm深 気温：窪川アメダスによる
2) 不織布被覆は定植直後 出芽始めは推定日

※「露地ショウガの安定生産栽培指針」より抜粋

2. 1次茎の保護

1次茎はショウガの生育にとって重要です。不織布を除去した後は、速やかに**カブラヤガ等のネキリムシ類**による食害を避けるために防除を行いましょ。また、**アワノメイガ、イネヨトウ等のメイガ類**は茎に食入し1次茎に大きなダメージを与えます。メイガ類の防除も行いましょ。

一特に注意すべき病害虫一

※「こうち農業ネット」より抜粋

① カブラヤガ

定植後まもない野菜類の株元をかじり、切り倒す**ネキリムシ**の代表種。ショウガの場合は、萌芽初期に茎の地際を食害される。特に、1次茎が食害を受けると、収量に大きく影響する。

若齢幼虫は地際の茎葉に寄生し、中齢幼虫期以降は日中は土中に潜み、夜間に地際部を食害するようになる。成長した幼虫は1匹ずつ散らばって分布しており、1匹の幼虫が次々と加害するので、棲息密度がそれほど高くなくても被害は大きい。

<対策>

- ・被害株元の土中に加害幼虫が潜んでいるので、そこを掘り起こして幼虫を捕殺する。
- ・畦をできるだけ高畦にして移動を防ぐ。
- ・定植前の土壌消毒も有効。



② イネヨトウ

ふ化後、茎内へ侵入し内部を食い荒らし、心枯れを起こす。被害はアワノメイガに酷似しているが、心枯れ茎内の食害痕はアワノメイガより荒々しい。また、幼虫の体色は淡紅色で、体長は26~31mmとアワノメイガよりもやや大きく、区別は付きやすい。

被害の多い時期は、5月下旬~6月上旬と9月下旬~10月である。5月下旬~6月上旬の発生は地域差や年次間差がみられるが、萌芽後間もない茎が食害されるため、発生量の割には被害が大きい。

<対策>

- ・ほ場内の枯死茎は、早めに除去し処分する。
- ・とうもろこしほ場に隣接した場所での栽培は避ける。

